



大盥 (大平新五作) 胴径54・高さ39cm



常滑壺 (鎌倉時代) 径15.8・高さ14cm



窯変焼締め広口壺 (大平新五作) 胴径19.9・高さ17cm



外容器 (平安時代) 径19.3・高さ26.6cm

SHINGO OHIRA ANCIENT AND MODERN



敷板 (室町末~江戸初) 長辺85・短辺38・厚さ1cm



筒茶碗 (大平新五作) 径11.5・高さ9cm

料金後納
ゆうメール

土砂壺 (室町時代) 径3.1・高さ9.3cm

大平新五展 古今一如
2021年11月20日(土)~28日(日) 11時~18時 最終日は17時迄
作家在廊日 11月20日



窯変焼締め瓶子 (大平新五作) 胴径19.5・高さ29cm

大平新五さんの自作の焼き物とご自身で収集した骨董品・古道具を合わせて展示します。大平さんは滋賀県信楽町で窯業材料を扱う家で育ちました。窯業を支える立場を通して、日用陶器や置物・傘立てなど家庭・産業向きの信楽焼きから、茶の湯好きの自然釉を活かした信楽焼きまで日頃から触れてきました。20代半ばから築窯師として陶芸家の使う穴窯や登り窯を作る仕事を始めます。規範となるのは信楽の古い窯や窯跡。その作業や修理を通して焼き物のことを学ぶと共に、穴窯から出てくる古い窯道具の美しさに魅せられていきました。当初は自作よりも骨董にも傾倒し、古信楽や窯道具を手始めに、古美術、古書津、李朝、仏教美術、さらに古材や鉄ものなど幅広く収集しました。さらに窯づくりの経験から半んだ薪窯の焼き物も作り始めます。こちらも基軸になるのは古信楽の趣。室町・桃山時代以降に茶人に愛された自然釉を活かした素朴な焼締めです。自作にしても骨董にしても通底しているのは詫び惚れの風情でしょう。それを見据える眼があるからこそ、古いものも新しいものも分け隔てなく繋いだ物として生み出せるのです。古きも新しきも同一であり、いずれも真実の姿である。弊店では初となる大平新五さんの個展「古今一如 (ここんいちによ)」の世界をどうぞ体感ください。 店主

ギャラリー うつわノート
埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-298-8715
MAIL utsuwanote@gmail.com

電車：川越駅(東武東上線) 環より徒歩25分
本川越駅(西武東武線)より徒歩20分
バス：東武バス東武線(小仙波) 徒歩5分(1) 信多院前
駅西12番乗場(小仙波) 徒歩5分(1) 信多院前
車：ギャラリー専用の駐車場は3台有

プロフィール
1973年 滋賀県信楽町に生まれる
1997年 窯業材料の仕事を行う
2000年 穴窯・登窯作りを請け負う
2000年 骨董蒐集を始める
2014年 京都にて初個展
2021年 現在、滋賀県信楽町にて活動中

大平新五展 古今一如
2021年11月20日(土)~28日(日)
作家在廊日 11月20日

GALLERY
うつわノート